



ななつかの風

畜産技術センターニュース

発行事務局

●広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町 584 番地
TEL 0824-74-0332
FAX 0824-74-1586

全国的成果 『最新農業技術・品種 2018』

農林水産省が選ぶ研究成果に、当センターから2件が選ばれました。

「たちすすか」WCSを混合したTMRによる
黒毛和種去勢牛の短期肥育

極短穂型イネWCS用乳酸菌製剤「畜草2号」
は低温発酵能と抗真菌力が優れる

これらの新技術は農業現場での効果が大いに期待できるもので、広く普及することを願っています。

始動 和牛TMRセンター

3月、当センター牧草地の隣に全農広島の飼料工場「和牛TMRセンター」が完成しました。TMRの直訳は「完全混合飼料」です。多くの和牛牧場では、草(ご飯)と穀類(おかず)を別々に飼槽へ配っています(1日最低4回の給飼作業)が、TMR(混ぜご飯)を使えば、給飼作業が1日1回に減らせ、食べ



残しも抑えられ、栄養バランスも日々安定します。TMR調製作業のノウハウや広島の和牛に適した栄養メニューは当センターから提供しています。ここで作られたTMRは当センターも購入利用しており、1頭の小さな牧場から100頭超の大牧場まで、牛の種類や労働力に合った使い方ができるように工夫されているTMRは、広島の和牛生産を支える大きな助けになると思います。

千客万来 遠くは北海道から

●5/5, こともの日、春の七塚原写生大会(開催事務局:東自治振興センター)



ー)が開かれました。160名余の家族連れが訪れ、春の風景と牛やヤギをモデルに画才を発揮されました。子供たちの観察眼は鋭く、「そう見えるか!」と感心させられました。

●6/4~5, 新開発の受精卵移植器具と採卵技術の研修を行いました。



やって来たのは、北海道、岡山県、鳥取県の受精卵担当研究員6名です。昼間の研修だけでなく、夜も和牛や酪農の振興

策、そして試験場運営など様々な意見交換を行い、お互いに有益な2日間となりました。

●6/12・19, 県立広島大学庄原キャンパスの2年生75名が見学に来ました。紹介したのは、搾乳ロボットと種雄牛からの精液採種です。インパクトはあったでしょうか?



●6/21, おそらく団体視察としては最年少、三田市保育所の3・4歳児31名が乳牛を見学に来ました。毎日飲んでいる牛乳がどのようにしてできているのかを見せたい、との食育への協力要請に応えました。事前に先生と打ち合わせも行い、3歳児は牛舎の外

から牛を見る。4歳児は牛舎内で搾乳ロボットも見る、といったクラス別の動線確認のほか、消毒や手洗いなど入念な準備の上、楽しんでもらいました。何事にも興味津々の子供たちでしたが、大きなお母さん牛、小さな子牛、ロボットでの搾乳などをどのように感じてくれたでしょう。これからも牛乳をたくさん飲んでください！



よろしくお願いします

4月転入の4人を紹介します。

①名前（役職・担当）、②畜技の感想、③抱負、④趣味、⑤世の中に望むこと、を聞きました。

- ①吉岡敏彦（総務部管理課長）
- ②歴史と伝統の重みを実感している
- ③現場の安全に気を付ける
- ④広島ドラゴンフライズの応援
- ⑤広島和牛を食べて元気に長寿

- ①保本朋宏（主任研究員・受精卵技術）
- ②牛に触れることができている
- ③みんな仲良くできる雰囲気づくり
- ④釣り
- ⑤平和

- ①戸水一志（主任研究員・種雄牛造成）
 - ②以前と変わらない心地良さがある
 - ③カーブとともに日本一を目指す
 - ④カーブ
 - ⑤平穏な生活
- ①新出昭吾（再任用研究員・乳牛飼養技術）
 - ②家畜と触れ合えることが楽しい
 - ③問題の迅速解決で県民の喜ぶ顔を見る
 - ④ヤギで中山間地域の活性化
 - ⑤他者の気持ちを考え行動する人が増えること

春の牧草 収穫一段落

今年はGW中に収穫が始まりました。3月が極端に暖かったので、例年よりも早く大きくなり、大方が倒れてしまいました。しかし、作業と天候のタイミングは概ね合ったので、ほとんど雨に遭うことなく、まずまずの品質の牧草サイレージに仕上がったのではないかと期待しています。フィルムでラップしているので、よし悪しは開けてからの楽しみ。牛が喜んで食べてくれたら Good です。

生まれる子牛 和牛は雄、乳牛は雌？

当センターでは、肉用種（黒毛和種）と乳用種（ホルスタイン種）をほぼ半々、全部で約120頭の牛を飼養しています。

表 H29年度産子牛

表は昨年度に生まれた子牛の品種別・性別頭数です。ほとん

品種	おす	めす
黒毛和種	11	2
ホルスタイン種	0	12

どの和牛子牛が雄なのは、種雄牛を作るべく性別判後の受精卵を移植しているケースが多いためです。一方、乳牛の子牛がすべて雌なのは、受精卵研究の受卵牛として雌の乳牛が必要なため、性別判別精液を使っているためです。また、和牛の受精卵は乳牛に移植しているため、子牛を産んだ母牛25頭のうち、23頭が乳牛です。今、全国的に和牛が減っています。県では、行政と研究の双方から、乳牛に和牛を産ませる施策展開・技術開発を行っています。

～編集後記～◆早くも最初の四半期が終わりました。29号がなかなか発行されなかったのは、記者兼編集者の交代が原因です。ここからペースを上げていきますので、おつきあいください。◆梅雨のさなかでも、晴れ間が割に多く、七塚原にはさわやかな風が吹き、牧草が涼しげになびいています。◆近年は専ら生産現場に近い位置での仕事が多かったので、記事の視点がそっち寄りになりがちかもしれません。ご容赦いただき、畜産技術センターへのご理解を深めていただければ幸いです。【かんちゃん】